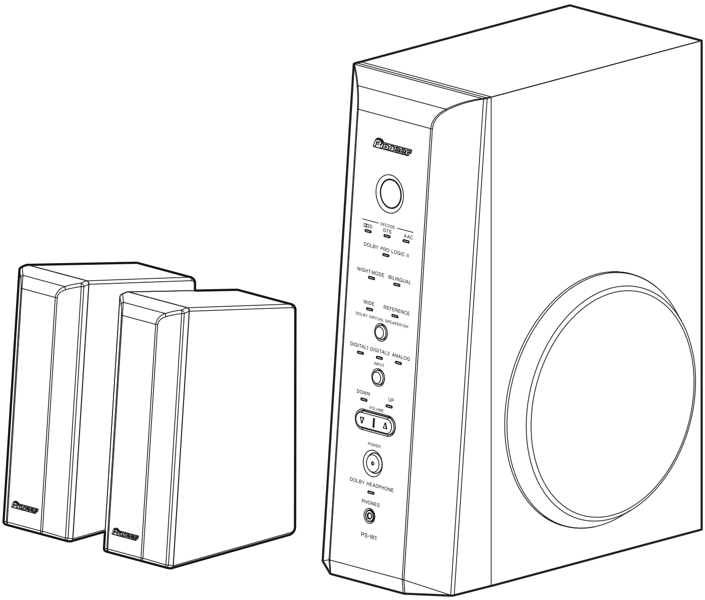
Pioneer sound.vision.soul

デジタルサラウンドスピーカー

PS-W1



このたびは、東北パイオニアの製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。ご使用の前にこの「取扱説明書」を最後までよくお読みのうえ、『安全上のご注意』に従い正しくお使いください。お読みになったあとは保証書、「サービス窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。また、この製品は一般家庭用として作られたものです。営業目的で使用し故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

取扱説明書

もくじ

安全上のご注意

- 安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
- ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠注意	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**

絵記号の例

△記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く)が描かれています。

⚠警告

【異常時の処置】

万一、煙が出ている、変な臭いや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ずACアダプターをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

万一、本機を落としたり、破損がある場合は、機器本体の電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



【設置】

プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。電源コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。電源コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気づかず、重いものをのせてしまうことがあります。



放熱をよくするため他の機器、壁などから間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あおむけや、逆さまにする。
- 押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
- じゅうたんやふとんの上に置く。
- テーブルクロスなどをかける。



着脱式の電源コード(インレットタイプ)が付属している場合のご注意：
付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また、電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。



【使用環境】

この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



表示された電源電圧(交流100 V　50 Hz / 60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。



【使用方法】

本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

ぬれた手でプラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。電源コードが破損して火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

雷が鳴り出したらプラグに触れないでください。感電の原因となります。

付属以外のACアダプターを使わないでください。破損・液漏れや、過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

⚠ 注意

【設置】

プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、プラグの刃に触れると感電することがあります。

プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

テレビ、オーディオ機器などに本機を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

【異常時の処置】

ACアダプターを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードを熱器具に近づけないでください。電源コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

移動させる場合は、電源スイッチを切り必ずACアダプターをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

【使用方法】

通電中のACアダプターに長時間触れないでください。長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

旅行などで長時間ご使用にならない時は、安全のため必ずACアダプターをコンセントから抜いてください。

【保守・点検】

5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

お手入れの際は安全のためにACアダプターをコンセントから抜いて行ってください。

主な特長

- ドルビーバーチャルスピーカーを搭載(2 chスピーカーでサラウンド再生が可能)
- 各種サラウンドフォーマット(ドルビー※1プロロジックⅡ、ドルビーデジタル、DTS※2、MPEG-2 AAC※3)に対応
- 簡単設置(2.1 chシステム)
- 場所をとらないコンパクト設計
- 最大出力トータル30 Wの迫力再生
- 口径12 cmのサブウーファーを搭載(迫力の低音再生が可能)
- ドルビーヘッドホン技術を搭載(夜間でも高品位なサラウンド再生が可能)
- 専用リモコンを付属

※1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

ドルビーデジタルとは
DVDの標準音声です。モノラルやステレオで記録されているソフトや現在最も主流となっている5.1 ch サラウンドで記録されているソフトがあります。
ドルビーデジタル(5.1 ch サラウンド)には、シーンに合った音声がチャンネル(5つ)のそれぞれに記録されています。また、サブウーファーから出力される低音も記録されています。

※2 “DTS”および“DTS Digital Surround”は米国Digital Theater Systems, Inc.の登録商標です。米国 Digital Theater Systems, Inc. からの実施権に基づき製造されています。

DTSとは
デジタルシアターシステム(Digital Theater System)の略で、5.1 ch のデジタル・サラウンド録音再生方式です。DTSデジタル・サラウンドで記録されたDVDソフトも、ドルビーデジタル(5.1 ch サラウンド)で記録されているソフトと同様に5.1 chで音声を楽しめます。

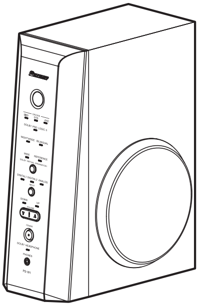
※3 AACパテントNo.
Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5 400 433; 5,222,189; 5,357,594; 5 752 225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5 297 236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844; 5,299,238; 5,299,239; 5,299,240; 5,197,087; 5,490,170; 5,264,846; 5,268,685; 5,375,189; 5,581,654; 5,548,574; 5,717,821

MPEG-2 AACとは
MPEG-2音声の標準方式の一つです。BS/110度CSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されています。低ビットレートで高音質なのが特長です。番組によってはマルチチャンネル音声が楽しめます。

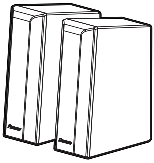
製品の構成を確認する

本機をお使いになる前に、すべてそろっているか確かめてください。

本体(サブウーファー)

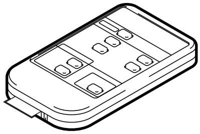


サテライトスピーカー

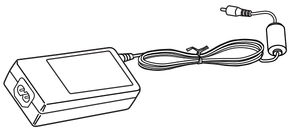


リモコン

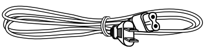
※リチウム電池(CR2025)はすでにリモコンに入っています。



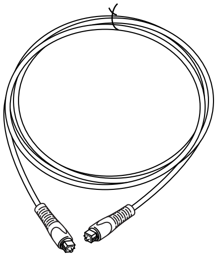
ACアダプター



電源コード



光デジタルケーブル
（角型←→角型）

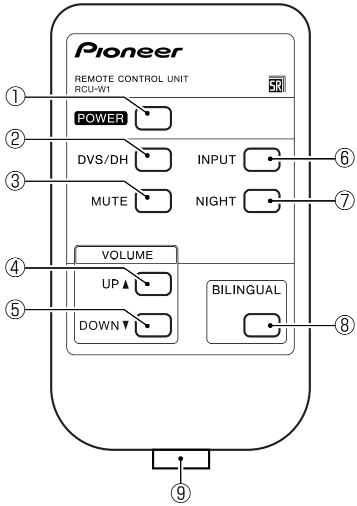


取扱説明書(本書)
保証書
サービス窓口のご案内

各部の名称とはたらき

リモコン

- リモコンは、本体正面へ向けて操作してください。
- リモコンの効きが悪くなった場合は、新しい電池に交換してください。交換方法については『リモコンの電池を交換する』(23ページ)をご覧ください。



① POWERボタン
電源をオン/オフします。

② DVS/DHボタン
スピーカーで聴いているときは、DVS(DOLBY VIRTUAL SPEAKER)モードを切り換えます(21ページ)。
ヘッドホンで聴いているときは、DH(DOLBY HEADPHONE)モードをオン/オフします(22ページ)。

③ MUTEボタン
消音します。

④ VOLUME UPボタン
音量を大きくします(20ページ)。

⑤ VOLUME DOWNボタン
音量を小さくします(20ページ)。

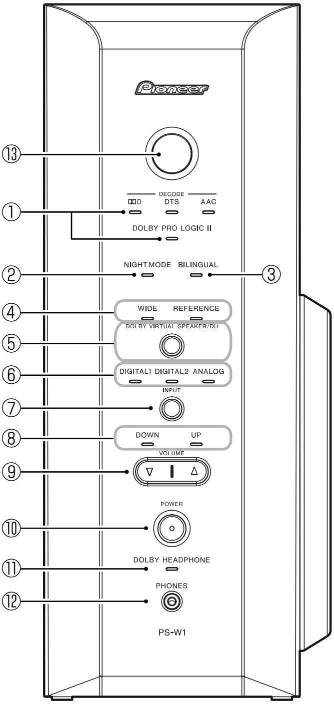
⑥ INPUT(入力切換)ボタン
入力(DIGITAL1/DIGITAL2/ANALOG)を切り換えます(19ページ)。

⑦ NIGHTボタン(リモコンのみ)
ナイトモードをオン/オフします(22ページ)。

⑧ BILINGUALボタン(リモコンのみ)
デュアルモノ音声を再生中に音声(Lch1・Rch2/ch1/ch2)を切り換えます(22ページ)。

⑨ ボタン電池保護シート
最初にリモコンをお使いになる前に、このシートを引き抜いてください。

本体正面



① **DECODEインジケーター**
入力された音声の記録方式を自動で判別して点灯します(22ページ)。

② **NIGHT MODEインジケーター**
ナイトモードで再生しているとき点灯します(22ページ)。

③ **BILINGUALインジケーター**
デュアルモノラル音声を再生しているに点灯します(22ページ)。

④ **DOLBY VIRTUAL SPEAKERインジケーター**
現在選ばれているDVSモードが点灯します(21ページ)。

⑤ **DOLBY VIRTUAL SPEAKER/DHボタン**
スピーカーで聴いているときは、DVS(DOLBY VIRTUAL SPEAKER)モードを切り換えます(21ページ)。
ヘッドホンで聴いているときは、DH(DOLBY HEADPHONE)モードをオン/オフします(22ページ)。

⑥ **INPUTインジケーター**
現在選ばれている入力が点灯します(19ページ)。

⑦ **INPUTボタン**
入力を切り換えます(19ページ)。

⑧ **VOLUME UP/DOWNインジケーター**
音量を調整しているときに点滅します(20ページ)。

⑨ **VOLUME UP/DOWNボタン**
音量を調整します(20ページ)。

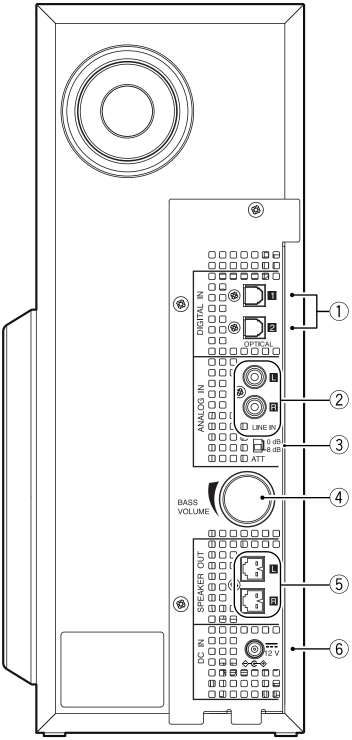
⑩ **POWERボタン**
電源をオン/オフします。

⑪ **DOLBY HEADPHONEインジケーター**
DHモードがオンのときに点灯します(22ページ)。

⑫ **PHONES端子**
ヘッドホンを接続します。この端子にヘッドホンが接続されているときは、スピーカーから音が出ません(17ページ)。

⑬ **リモコン受光部**

本体背面



① DIGITAL IN OPTICAL 1/2端子
デジタル機器(DVDプレーヤー/地上・BS・110度CSデジタルチューナー、またはCDプレーヤーなど)の光デジタル音声出力端子に接続します。

② LINE IN端子
AV機器(テレビ、またはビデオデッキなど)の音声出力端子に接続します。

③ ATT(ATTENUATOR)スイッチ
通常は[−8 dB]に設定します。LINE IN L/R端子に接続した機器の音声が小さいときは[0 dB]に設定します。

④ BASS VOLUMEつまみ
サブウーファーの音量を調整します。

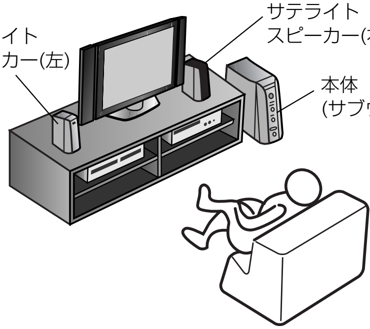
⑤ SPEAKER OUT L/R
サテライトスピーカーを接続します。

⑥ DC IN端子
付属のACアダプターを接続します。必ず付属のACアダプターをお使いください。プラグの極性などが異なるACアダプターを使うと、故障の原因になり危険です。

設　置

設置例

サラウンド効果を最大限に発揮させるため、下図のようにスピーカーを設置することをお勧めします。

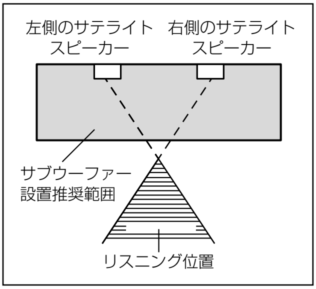


ご注意

- 左右のサテライトスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- サテライトスピーカーはテレビの近くでお使いいただけますが、設置した場所によってテレビに色ムラなどが生じることがあります。色ムラが生じるときは、テレビの電源をオフにしてから15～30分後に再度電源をオンにしてください。テレビの自己消磁機能より色ムラが改善されます。それでも色ムラが生じるときは、サテライトスピーカーとテレビをさらに離して設置してください。
- サブウーファーとテレビは10 cm以上離して設置してください。サブウーファーには減磁処理が施されていますが、テレビに色ムラなどが生じることがあります。色ムラが生じるときは、テレビの電源をオフにしてから15～30分後に再度電源をオンにしてください。テレビの自己消磁機能より色ムラが改善されます。それでも色ムラが生じるときは、サブウーファーとテレビをさらに離して設置してください。
- 磁気の影響を受けやすい機器(フロッピーディスク、カセットテープ、ビデオテープなど)は本機から離してお使いください。
- 本機の近くに磁気を発生するもの(磁石など)が置かれているときは、本機との相互作用により、テレビに色ムラなどが生じることがあります。設置するときはご注意ください。
- サブウーファーを設置するときは、放熱を良くするため他の機器や壁などから十分な間隔をとってください(天面25 cm以上、後面10 cm以上、右側、左側各10 cm以上)。本機と壁および他の機器との間隔がとれないと、内部に熱がこもり、性能不良または故障の原因になります。

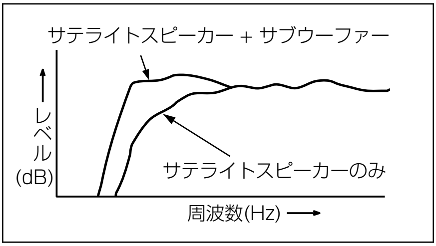
スピーカーの設置について

サブウーファーは、人間の耳が低音域において方向感覚が無くなることを利用し、重低音をモノラルで再生します。方向感覚が無くなるため、設置場所は、かなり自由になりますが、あまり離れた場所に置くと左右のスピーカーとの音のつながりが不自然になる場合があります。



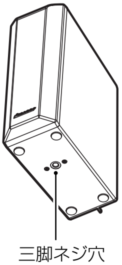
サブウーファーとサテライトスピーカーの組み合せ

サブウーファーとサテライトスピーカーを組み合せると、下図のような特性が得られ、低音域が増強されます。



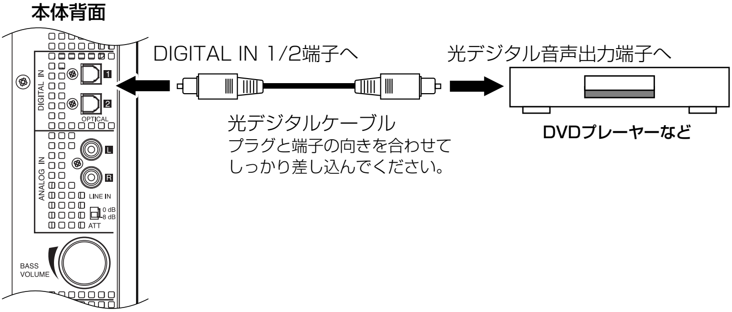
サテライトスピーカーの設置について

底面のネジ穴に市販の三脚を取り付けることもできます。



デジタル機器と接続する

付属の光デジタルケーブルを使って、DVDプレーヤー、LDプレーヤー、または地上・BS・110度CSデジタルチューナーなどの光デジタル音声出力端子と本体背面のDIGITAL IN 1/2端子を接続します。



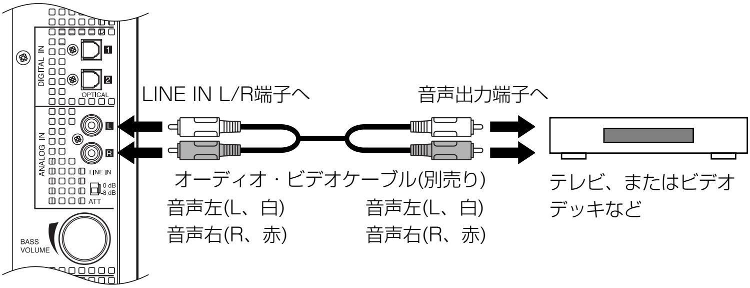
ご注意

- 光デジタルケーブルは非常に精密です。プラグを抜き差しするときは丁寧にお取り扱いください。
- 本機にはAC-3 RF端子が装備されていませんので、LDプレーヤーのAC-3 RF信号を直接入力できません。
- 本機のデジタル入力は32 kHz、44.1 kHzおよび48 kHz以外のサンプリング周波数には対応していません(対応していないサンプリング周波数のデジタル音声が入力されると、INPUTインジケーターが点滅します)。接続している機器(DVDプレーヤーなど)のデジタル音声出力の設定を48 kHzに設定してください。
- パソコンと光デジタルケーブルで接続したときの動作は保証いたしません。
- DTS音声で収録されたディスクを再生するときは下記についてご注意ください。
  - → DTS音声で収録されたDVDをDTS音声で再生するには、DTSに対応したDVDプレーヤーが必要です(詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください)。
  - → DTS音声のLD、またはCDを早送り/早戻しすると、ノイズが発生することがあります。これは故障ではありません。
  - → DVDプレーヤーのDTSデジタル出力設定がオフなどに設定されているときは、ディスクメニューでDTS音声を選んでいても音が出ないことがあります。
  - → 本機とDVDプレーヤーなどをオーディオ・ビデオケーブルでのみ接続してるときは音が出ないことがあります。このときは、光デジタルケーブルで接続してください。

アナログ機器と接続する

オーディオ・ビデオコード(別売り)を使って、テレビ、またはビデオデッキなどの音声出力端子と本体のLINE IN L／R端子を接続してください。
また、ヘッドホン端子などのステレオミニジャックとLINE IN L/R端子を接続するときは別売りの変換コード(ステレオミニプラグ←→ピンプラグ×2)などをお使いください。
このとき、再生機器側の音量が小さいとノイズが発生することがあります。

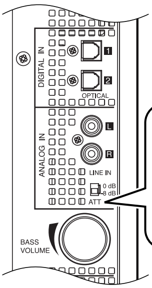
本体背面

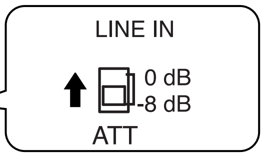


本体背面

■ ATT(アッテネーター)スイッチについて

LINE IN L/R端子に接続した機器からの音声が小さいときは、本体背面のATTスイッチを[0 dB]に切り換えてください。



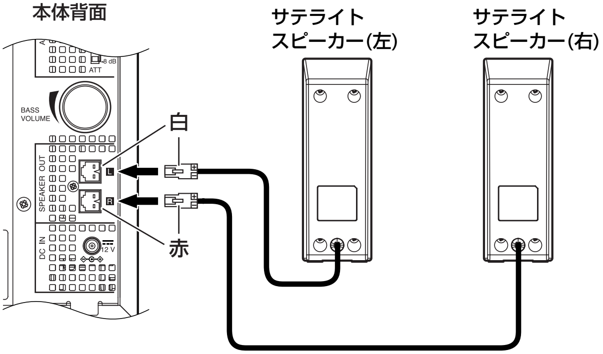


設定	接続している機器
0 dB	音声出力レベルの小さい機器(テレビ、またはポータブル機器など)
−8 dB	その他の機器(お買い上げ時の設定)

ご注意

ATTスイッチは、必ず音量を小さくしてから切り換えてください。LINE IN L/R端子に接続した機器からの音声が歪む(同時にノイズが発生することもあります)ときは、ATTスイッチを[−8 dB]に切り換えてください。

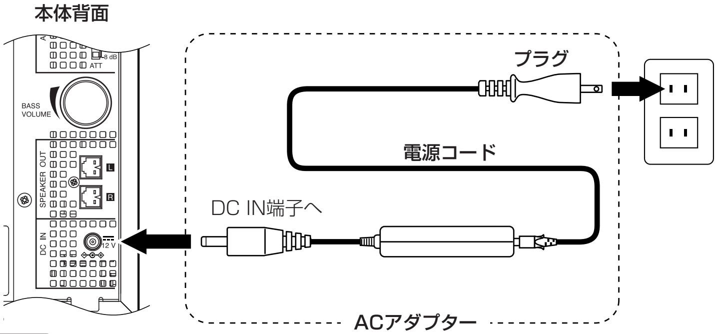
サテライトスピーカーと接続する



ご注意

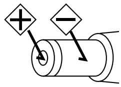
コネクターのロック爪が「カチッ」と鳴るまで確実に差し込みます。

ACアダプターと接続する



ご注意

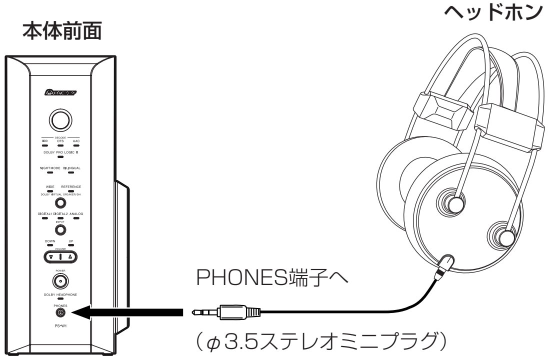
●必ず付属のACアダプター(極性統一形プラグ・JEITA規格)をお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと故障の原因となります。



●電圧やプラグ極性が同じACアダプターでも、電流容量やその他の要因で故障の原因となります。必ず付属のACアダプターをお使いください。

ヘッドホンと接続する

PHONES端子にお手持ちのヘッドホンを接続することにより、ドルビーヘッドホンのサラウンド効果を楽しめます。

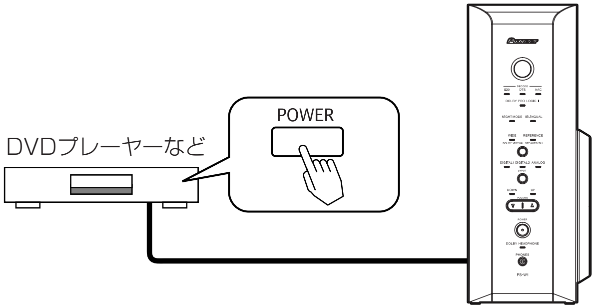


ご注意

ヘッドホンをPHONES端子から抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。

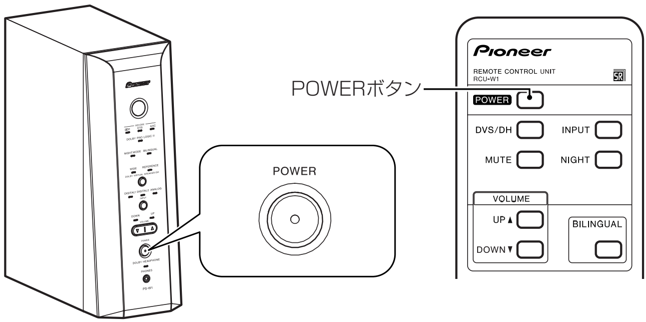
操　作

1 再生したい機器の電源をオンにする



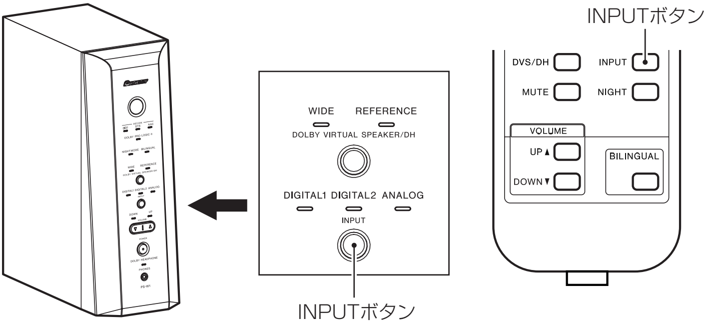
2 本体の電源をオンにする

本体またはリモコンのPOWERボタンを押します。本体正面の各インジケーターが点灯します。



3 入力を切り換える

本体またはリモコンのINPUTボタンを押して、再生したい機器を選びます。



点灯するインジケーター	選ばれている機器
DIGITAL 1	DIGITAL IN OPTICAL 1端子に接続している機器
DIGITAL 2	DIGITAL IN OPTICAL 2端子に接続している機器
ANALOG	LINE IN L/R端子に接続している機器

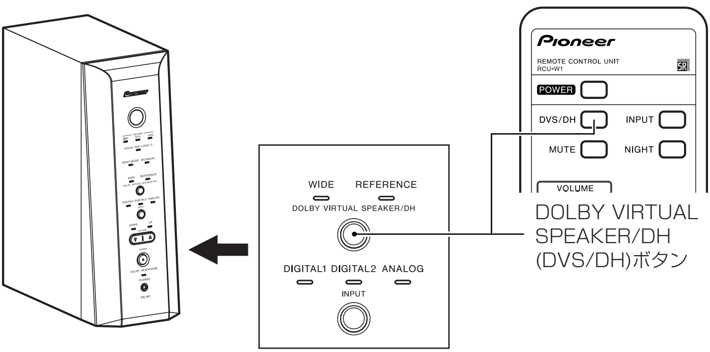
ご注意

LINE IN L/R端子に接続して二重音声(MAIN/SUB)を視聴するときは、接続している機器(DVDプレーヤーやテレビ)で聞きたい音声に切り換えてください。

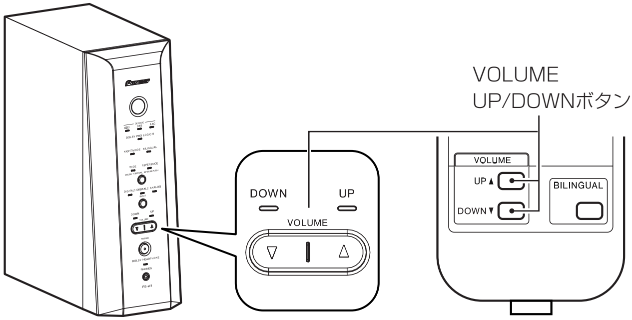
4 3 で選んだ機器を再生する

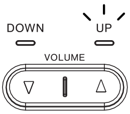
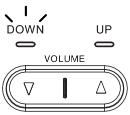
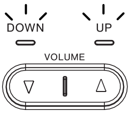
5 サラウンド効果を選択する

本体またはリモコンのDOLBY VIRTUAL SPEAKER/DH(DVS/DH)ボタン押して選びます。押すたびにサラウンド効果(21、22ページ)が切り換わります。



6 音量を調整する



音量調整表示	
	**音量を大きくしたとき** 音量を大きくすると点滅します。 音量が最大になると点灯に変わります。
	**音量を小さくしたとき** 音量を小さくすると点滅します。 音量が最小になると点灯に変わります。
	**消音したとき** リモコンのMUTEボタンを押して消音すると点滅します。

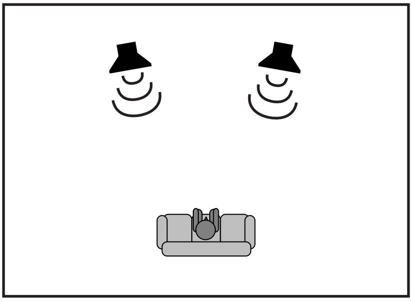
音量について

スピーカーとヘッドホンの音量はそれぞれ独立して記憶されます(ACアダプターを抜くと、お買い上げ時の設定に戻ります)。

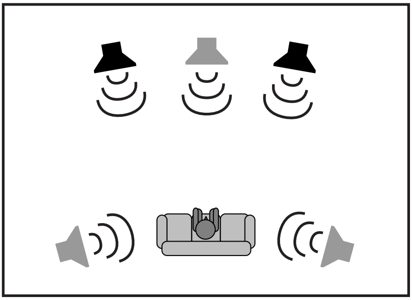
DOLBY VIRTUAL SPEAKER(DVS)モード

本体のまたはリモコンのDOLBY VIRTUAL SPEAKER/DH(DVS/DH)ボタンでREFERENCE/WIDE/オフを切り換えます。

オフのイメージ

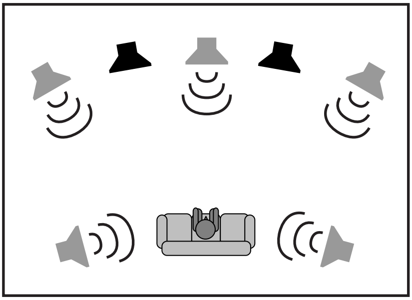


REFERENCEモードのイメージ



音質と正確なスピーカー定位に主眼を置いて、実際の5.1チャンネル音響システムをシミュレートしています。

WIDEモード(お買い上げ時の設定)のイメージ



より広いイメージと包囲感のある音場効果を得られます。スピーカーが異なる場所にあるようにバーチャル化します。

操作

DOLBY HEADPHONE(DH)モード

本機にはドルビーヘッドホン技術が搭載されています。2 chステレオヘッドホンを接続するだけでマルチチャンネル立体音響を擬似的に楽しめます。ドルビーデジタル音声、DTS音声、またはドルビープロロジックⅡデコード処理されたステレオ音声を臨場感あふれるサラウンド音響効果で楽しめます。また、部屋に設置されたスピーカーから音が出ているような効果を得ることができます。

ナイトモード

夜間などに小さい音量で映画や音楽を視聴していると、響きが少なくなったり、微小な音やセリフが聞こえなかったりします。ナイトモードをオンにすると、小さい音量でも映画や音楽の微小な音やセリフなどを聞き漏らすことなくお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックⅡ

ドルビープロロジックⅡはすべてのステレオ音声を5.1 ch音声に拡張して再生する技術です。高音質を維持しながらオリジナルの音声にできる限り忠実に5.1 ch音声の立体音響空間を表現できます。

DECODEインジケーター

入力された音声の記録方式を自動で判別して点灯します。音声(ドルビーデジタル/DTS/PCMなど)は接続した機器側(DVDプレーヤー/地上・BS・110度CSデジタルチューナーなど)で切り換えてください。

DD D：ドルビーデジタル音声が入力されているときに点灯します。

DTS：DTS音声が入力されているときに点灯します。

AAC：MPEG-2 AAC音声が入力されているときに点灯します。

デュアルモノ

デュアルモノとは、2つのモノラル音声(チャンネル1/チャンネル2)が記録されているデジタル音声(1+1デュアルモノ音声)です。
DIGITAL IN OPTICAL 1/2端子に接続した機器で下記のような番組を視聴中に出力する音声(ch1/ch2/Lch1·Rch2)を切り換えられます。リモコンのBILINGUALボタンで切り換えます。

- ■ DVDレコーダーで録画した二カ国語放送(ドルビーデジタル 1+1デュアルモノ音声)の番組を視聴しているとき
- ■ 地上・BS・110度CSデジタルチューナーなどで二カ国語放送(MPEG-2 AAC 1+1デュアルモノ音声)の番組を視聴しているとき

ch1：チャンネル1のみ出力する
ch2：チャンネル2のみ出力する
Lch1·Rch2：左からチャンネル1、右からチャンネル2を出力する

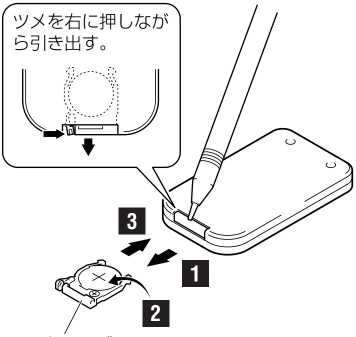
リモコンの電池を交換する

電池はリチウム電池(CR2025)をお使いください。

1 電池ホルダーを引き出す
電池ホルダーの左側にあるツメを右に押しながら、溝に鉛筆などを入れて引き出します。

2 リチウム電池を入れる
⊕と⊖を正しく入れてください。また、⊕側が電池ホルダーの上面になるように入れてください。

3 電池ホルダーをはめ込む



⚠ 警告

リチウム電池について

- ●幼児の手の届かない所に置いてください。
- ●万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。
- ●分解、火に投入、充電、加熱、ハンダ付け、ショートはしないでください。

ご注意

リチウム電池を誤って使用すると、リチウム電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
次の点にご注意ください(リチウム電池の注意事項も必ずご覧ください)。

- ◆ 指定以外のリチウム電池は使用しないでください。また、新しいリチウム電池と古いリチウム電池を混ぜて使用しないでください。
- ◆ リチウム電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(⊕)マイナス(⊖)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。
- ◆ 長時間(1カ月以上)使用しないときは、リチウム電池を取り出しておいてください。もし液がもれた場合は、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから新しいリチウム電池を入れてください。また万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。
- ◆ 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。
- ◆ 電池ホルダーを逆にはめ込むと破損の原因となりますので、ご注意ください。
- ◆ 不要となったリチウム電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。

故障かな?と思ったら

故障かな？と思ったら以下の項目を確認してください。また、本機と接続している機器もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは、『保証とアフターサービス』(27ページ)をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

症　状	考えられる原因と処置
音が出ない	● 正しく接続されているか確認してください(14～17ページ)。 ● サテライトスピーカーが正しく接続されているか確認してください。また、コネクターと端子の色が合っているか確認してください(16ページ)。 ● 接続している機器の電源をオンにして、再生を始めてください。 ● 正しく入力が切り換えられているか確認してください(再生したい機器を接続している入力を選んでください)(19ページ)。 ● 他機器を本体背面のLINE IN L/R端子に接続しているときは、他機器の音量を大きくしてください。 ● スピーカーとヘッドホンの音量はそれぞれ独立して記憶されます。それぞれの音量を大きくしてください(20ページ)。 ● 本機の電源がオンになっているか確認してください。 ● DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)がDTSに対応していないときは、DTS音声が再生できません。DTS対応のDVDプレーヤーをお使いいただくか、ディスクメニューなどでDTS以外の音声を選んでください。 ● DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)からDTS音声が出力されているか確認してください。デジタル音声の出力設定についてはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ● DTS音声で収録されたDVDを本体背面のLINE IN L/R端子にのみ接続したDVDプレーヤー(ゲーム機を含む)で再生しているときは音が出ません。
INPUTインジケーターが点滅している	● 本機で対応していないサンプリング周波数のデジタル音声が入力されています。接続しているDVDプレーヤーのデジタル音声の出力設定を48 kHzに設定するか、本体背面のLINE IN L/R端子に接続して、入力を[ANALOG]に切り換えてください(15、19ページ)。
DTS音声で記録されていDVDを再生できない	● DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)がDTSに対応していないときは再生できません。DTS対応のDVDプレーヤーをお使いください。
音が歪む(ノイズが出る)	● 本体背面のATTスイッチを[−8 dB]に切り換えてください(15ページ)。 ● 本機を他機器のヘッドホン端子に接続したときは、他機器の音量を小さくしてください。
音が小さい	● 本体背面のATTスイッチを[0 dB]に切り換えてください(15ページ)。 ● 本機を他機器のヘッドホン端子に接続したときは、他機器の音量を大きくしてください。 ● スピーカーとヘッドホンの音量はそれぞれ独立して記憶されます。それぞれの音量を大きくしてください(20ページ)。

症　状	考えられる原因と処置
サラウンド効果が得られない	● DVSモードがオフに設定されていないか確認してください(21ページ)。 ● DHモードがオフに設定されていないか確認してください(22ページ)。 ● 再生中の音声がマルチチャンネル音声か確認してください。モノラル音声のときはサラウンド効果が得られません。
DDDインジケーターが点灯しない	● DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)からドルビーデジタル音声が出力されているか確認してください。デジタル音声の出力設定についてはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ● 再生中の音声がドルビーデジタルか確認してください。
DOLBY PLO LOGIC Ⅱインジケーターが点灯しない	● ステレオ音声を再生中のみ点灯します。 ● ステレオ音声を再生中にDVSモードまたはDHモードがオフに設定されていないか確認してください。
DTSインジケーターが点灯しない	● DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)からDTS音声が出力されているか確認してください。デジタル音声の出力設定についてはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ● 再生中の音声がDTSか確認してください。 ● お使いのDVDプレーヤーがDTSに対応しているか確認してください。
AACインジケーターが点灯しない	● 地上・BS・110度CSデジタルチューナーからMPEG-2 AAC音声が出力されているか確認してください。デジタル音声の出力設定については地上・BS・110度CSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。 ● 再生中の音声がMPEG-2 AACか確認してください。

静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。このようなときは、電源コードを一度抜いて再び差し込むことで正常に動作する場合があります。それでも正しく動作しない場合は、『保証とアフターサービス』(27ページ)をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

使用上のご注意

取り扱いについて

●本体、サテライトスピーカーを落としたり、ぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因となります。

●各機器を分解したり、開けたりしないでください。

電源と設置について

●長い間使わないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。コンセントから抜くときは、コードを引っ張らずに必ずプラグをつかんで抜いてください。

●次のような場所には置かないでください。

• 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所、および暖房器具の近くなど温度が非常に高い所
• ほこりの多い所
• ぐらついた台の上や傾いた所
• 振動の多い所
• 風呂場など、湿気の多い所

お手入れのしかた

機器の外装の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液で湿らせた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは、表面の仕上げを傷めるので使わないでください。

異常や不具合が起きたら

●万一、異常や不具合が起きたり、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店、またはパイオニアサービスステーションの窓口にご相談ください。

●お買い上げ店、またはサービス窓口にお持ちなる際は、必ず本体とサテライトスピーカーを一緒にお持ちください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所へのおもいやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聞くのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



保証とアフターサービス

保証書(別添)について

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

この製品の補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後6年です。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。
また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付センターにご相談ください。
所在地、電話番号は別添の「サービス窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

24～25ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：デジタルサラウンドスピーカー
- 型番： PS-W1
- お買い上げ日
- 故障の状況(できるだけ詳しく)

■ **保証期間中は：**
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ **保証期間が過ぎているときは：**
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

■ **お願い：**
修理のために本機をお持ち込みいただく際は、部分的な故障と思われる場合でもシステム全体での動作確認が必要となるため、全機器をお持ち込み願います。

愛情点検

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。
こんな症状はありませんか?

- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 電源コードにさけめやひび割れがある。
- 電気が入ったり切れたりする。
- 本体から異常な音、熱、臭いがする。

⇩

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店またはパイオニアサービスステーションに点検(有料)をご依頼ください。

仕　様

■本体(サブウーファー)

□アンプ部

実用最大出力	7.5 W +7.5 W (サテライトスピーカー) 15 W (サブウーファー)
入力インピーダンス	40 kΩ
出力端子	専用スピーカー出力(L/R)×1 ヘッドホン出力(φ3.5ステレオミニジャック)×1

□プロセッサー部

再生可能フォーマット	ドルビーデジタル(サラウンドEXを含む) ドルビープロロジックⅡ DTS(DTS-ESを含む) MPEG-2 AAC PCM(Fs= 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz)
サラウンド機能	DOLBY VIRTUAL SPEAKERモード： WIDE、REFERENCE DOLBY PRO LOGICⅡ DOLBY HEADPHONE(ヘッドホン出力)
入力端子	デジタル：光角型×2 アナログ：ステレオRCAピンジャック×1

□スピーカー部

型式	バスレフ型
スピーカーユニット	12 cm コーン型フルレンジ
インピーダンス	4 Ω

□電源・その他

電源	DC12 V(付属のACアダプターを使用)
消費電力	20 W
待機時消費電力	0.75 W
外形寸法	140 mm(幅)×340 mm(高さ)×267 mm(奥行)
質量	4.4 kg

■サテライトスピーカー

型式	バスレフ型、防磁設計(JEITA)
スピーカーユニット	4 cm ×10 cmコーン型フルレンジ
インピーダンス	8 Ω
最大入力	10 W
外形寸法	60 mm(幅)×178 mm(高さ)×136 mm(奥行)
質量	0.7 kg
スピーカーコード	3 m

■付属品

ACアダプター(電源コード含む)
光デジタルケーブル(角型 2 m)
リモコン(リチウム電池CR2025)
取扱説明書(本書)
サービス窓口のご案内

●本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

＜各窓口へのお問い合わせの時のご注意＞
市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■0070−800−8181−22　■一般電話　03−5496−2986

■ファックス　03−3490−5718

■インターネットホームページ　http://www.pioneer.co.jp/support/index.html
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81028（ゴーパイオニア）　■一般電話　03−5496−2023

■ファックス　0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://www.pioneer.co.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−879−1910

■ファックス　098−879−1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81095　■一般電話　0538−43−1161

■ファックス　0120−5−81096

平成18年1月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.016

東北パイオニア株式会社　〒994-8585　山形県天童市久野本1105
Printed in China〈WRA1097-A〉